

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(92)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(92)—

1. 始めに

前報(91)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、今回からスピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も宗教曲です。

Deutsche Grammophon 2532 028

モーツアルト **Grosse Messe C-Mol**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

この曲は、[アナログプレイヤーの比較試聴\(36\)](#)、前報(88)、前報(89)などで聴いたレクイエム同様、スケールの大きな宗教曲です。合唱陣の迫力、ソリスト特にソプラノのバーバラ・ヘンドリックスの声の張りが素晴らしくリアルです。オーケスト陣もどこかモーツアルトも交響曲を思わせるような優雅な表情を見せてくれますし、セレナーデかディヴェルティメントのようなアンサンブル風の伴奏にのってバーバラ・ヘンドリックスが抒情的に歌うところもあります。

モーツアルトのレクイエム同様、カラヤンの面目躍如というところで、こういったところが、SPA-7 が加わって効果的に再現されています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E に加えて SPA-7 などの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上